NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター　イデア

2014

9月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

～もくじ～

2｜二言三言 ~ネットワークと新しいビジョン~

4｜団体紹介 ~清水公園保存会~（花泉）

5｜地域紹介 ~千厩町小梨・南小梨自治会~（千厩）

6｜企業紹介 ~有限会社　三浦工務店~（室根）

7｜センターの○○ ~わたしたちの一関の未来づくりワークショップ~

フタコト×ミコト

第４回　二言三言 7/124,843

ネットワークと新しいビジョン

対談者　陸前高田まちづくり協働センター　統括コーディネーター　**三浦　まり江**さん
聞き手　いちのせき市民活動センター センター長　**小野寺 浩樹**

人からひとへ、人から組織へ

【小野寺】東日本大震災から早いもので 3 年が経ちましたね…いろんな意味で新たなフェーズ（段階）に移ってきたのかな？と感じているところですが、思いおこせば、発災直後に陸前高田の避難所を訪問したとき、「これからの復興まちづくりを市民主体で進めていくために支援機能が必要なのでは？」と勝手に感じて、いちのせき市民活動センターのノウハウ移転として、陸前高田まちづくり協働センターを開設し、早いもので 2 年。陸前高田のまちづくりに少しずつだけど馴染んできたかなと感じているところなのですが…。

【三浦】開設当初は運営する私たちも、住民の皆さんも、「『まちづくり』って何だろう？『協働』って何だろう？」と、きちんとわからないままセンターができたという感覚でしたね。今は、市内の NPO やまちづくり協議会などを含む活動が活発になる中で、少しずつ浸透し、センターが協働のまちづくりの支援拠点であることが認識されてきた気がします。3 年目に入って、やっとセンターが機能し始めてきたかな？とは言え、NPO への理解が高まってきたかと言えば、まだまだです。住民や行政から信頼できる仲間と思ってもらうには、もう少し時間が必要かなと感じますね。

【小野寺】震災前は、地縁組織活動が当たり前すぎて、市民活動という分野が地域社会の位置づけになっていなかったことを記憶しています。発災直後たくさんの NPO･NGO が県外から支援に入ってきて、急に NPO 文化が広がりだしたって感じだったよね？

【三浦】そうですね。高田の NPO は今、法人認証を受けているもので 16 団体ありますが、内 14 法人は震災後に立ち上がったものです。それも住民自らが立ち上げたというよりは、外の NPO が知恵を入れて組織がスタートしたっていうのが多いので、「結局 NPO って何？」と、所属する本人たちもよくわかっていなかったんですよね…「NPO＝ボランティア」という意識が強く、「地域をつくる・運営する主体の一つ」とは考えられなかったのが実際のところ…「皆さんがこれまでやっていたことが NPO なんですよ！」と言っても今ひとつ実感がわかなかったようです。

【小野寺】今現在、地域の動きは、三浦さんの目にどう映っていますか？

【三浦】「地域をより良くしよう！」と活発に動いているところもあれば、これまで通りで…と地域でも様々です。「地域運営上問題がない」と住んでいるみなさんが思うのであれば構わないのですが…支援する側として一歩引いて見た時に、住民が本当は思うことがあるけれど「聞ける場がない、話す場がない、ま

とめる場がない」など、実はうまく意見を吸い上げる場がないんじゃないか？とか、意見集約したとしても、それが反映されないのでは？という不安もある気がします…まちづくりの主体それぞれが持つ得意分野と役割の認識がまだ曖昧というか…これが地域最大の課題かなと。地域の課題に対して、どこがやると一番効果的かというルートや仕組みをつくることが大切だと感じますね。まちづくりは、住民一人一人が主人公であり、外にいる人が主体となってすることではないと思うので…住むまちがどうあるといいという事も住民のみなさんが考えて作りあげることが、高田らしいまちづくりにつながると思います。

陸前高田まちづくりのネットワーク

【小野寺】一関もそうだけど、地域を運営する仕組みって改めて大事なことだと感じますね。全国的に少子高齢化が叫ばれ、その状況に対応できる地域運営をしていかなければいけない。そう考えると、今年、まちづくりコーディネーター育成講座を開催してみて、参加者の様子が、大きく変化しているように感じるのですが…。

陸前高田まちづくり協働センターWSの様子

【三浦】そうですね。これまでも講座は開催してきましたが、スタッフに強く引っ張られて参加していた方が多かったと思います。今回、定員がいっぱいになるくらい参加申し込みがあったことは大きな変化ですね。復興工事、特に住宅の再建が動き出したことで、「自分のことから住むまちのことへ」と意識が変わり、少なからず今の活動や地域に課題を感じ、自ら動く方が増えたのではないでしょうか？

【小野寺】今後、講座に参加した人たちが、どうなっていることを期待していますか？

【三浦】今回の講座は、まちづくりの担い手をコーディネートする人材育成を目的にしています。参加者のみなさんには、ぜひ自分の地域で、仲間や他の人たちをコーディネートし、「一人一人がこれからのまちづくりのキーマン」になってもらいたいと思っています。講座で学んだことを今度は自分が講師になって、地域のみなさんに共有し、どんどん輪を広げてくれることを期待しています。

こころの支援と交流と

【小野寺】最後に、「陸前高田は、いまどうなっている？どんな支援が必要？」と思う人たちも多いと思います。実際に必要な支援は？

【三浦】今、現地で活動している団体は自立支援や、住民主体の活動への転換ということを考えています。支援団体の数は減ってきています。活動の期限ということもあるでしょうが、緊急的なニーズが減ったということも、外部団体が決断する決め手の一つだったと思います。炊き出しや物資支援という緊急期に需要の高かったニーズは、今はほとんど聞かれません。必要としている時もありますが、多くはライフラインの回復、ものが買える状態になったことで、改善してきています。今、例えばトイレットペーパーを送ります、と言われると、地元の商店ではトイレットペーパーが売れなくなってしまうかもしれません。ただでもらえるから買わない、そうすると、地域の経済が回りません。中心市街地のゾーニング案（配置を区分すること）が検討されていますが、店を再建するにもテナントとして入るにも、そのための資金を蓄えなければならない。ものの支援が全く要らないとも言えないですが、このあたり、少し配慮してもらえたらと思います。これからは、ものの支援よりも、こころの支援が必要とされてきます。3年が経過したとはいえ、仮設住宅の入居率は依然高い状態で、いつになったら再建できるのか？不安を感じてこころが苦しくなっている方は多いです。こころに寄り添い、励ましながら背中を押してあげるような、そんなお手伝いをしてもらえたらと思います。「支援をしてあげる」から、「一緒に歩いていきましょう」という方向へ。やってあげるのではなく、やり方を教えながら一緒に作業する。人と人との交流にもつながりますし、前向きな明るい気持ちにもなれると思います。

基本情報

【陸前高田まちづくり協働センター】
住所：〒029-2205
岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1
高田大隅つどいの丘商店街内11号
TEL　0192-47-4776　FAX　0192-47-4778
E-mail　rtkyodo@gmail.com

紙面で紹介しきれなかった部分は、「こぼれ話」としてブログに掲載しています。気になる方はチェック！
URL：blog.canpan.info/ichinoseki/category_15/1

清水公園保存会

団体紹介

会長　小金森惇夫さん

～基本情報～

◆会長：小金森惇夫（こがねもりあつお）さん

◆連絡先：〒029-3101

一関市花泉町花泉字町 89

◆電話：0191-82-3007

地域住民の心のふるさとをきれいにしていつまでも残したい

花泉に二桜城あり

ＪＲ東北本線清水原駅から花泉小学校方面に向かう市道の傍らに６体の笠地蔵が佇む清水集落。その奥に広がる小高い山に、かつて二桜城（におうじょう）と呼ばれるお城がありました。「築城年代は定かではありません。文献によれば、延暦年間（782 年～806 年）に坂上田村麻呂が蝦夷征伐のおりの陣所としたと伝えられています」と小金森さんは語ります。小金森さんからいただいた資料によると、平安時代には藤原秀衡公の家臣照井太郎高春が居住。延慶２年（1309 年）から約 300 年間は清水清秀一族が、文禄２年（1593 年）から伊達一族の留守政景が居城したと記録されています。清水集落は、城があった頃の地域の中心地で、当時は城山の下に街が形成されており、当時の家臣達の屋敷があった雰囲気が今も残っています。

「城山には花立泉（かりゅうせん）と呼ばれる井戸があります。花泉の町名の由来はここから来ています」と小金森さんに教えていただきました。

城山は心のふるさと

二桜城のあった場所の下にはかつて花泉小学校がありました。城跡の一画には八幡神社がまつられており、現在、清水公園として整備され住民が気軽に集える憩いの場所となっています。

学び舎は地域の人々にとって、心のふるさとになる場所。そんな思い出のある城跡を整備して、いつでも気持ちよく足を運べることのできる場所にしたいという思いから発足したのが清水公園保存会です。

「地域では会ができる前からも清水公園を清掃していましたが、今から 20 年ほど前に保存会を設立してからは、地域一丸となって活動しています」と語る小金森さん。

保存会には花泉地区清水集落の全戸 120 戸が加入しており、年会費 2000 円が活動の元となっています。会では、6 月と 10 月の年 2 回会員が集まり、公園内の草刈りやゴミ拾い、枯木の伐採などを行っています。また、公園整備の一環として花木等の植栽も行っています。それ以外にも、花泉高校生と地元ロータリークラブ会員との合同清掃活動が 11 月に行われているそうです。小金森さんは「皆さんの協力で大変きれいに公園を維持保存できています。故郷を離れた人も懐かしそうに訪ねて来られます」とうれしそうに語ります。

次の世代へ引き継ぐ

かつては、城山から花泉の町が一望にできたそうですが、最近は立木が伸びて景観が悪くなってきたそうです。「住民の方々の理解と協力を得ながらかつての素晴らしい景観が取り戻せるよう活動して、次の世代へとつないでいきたい」と抱負を語る小金森さん。

春の桜、木立の蝉しぐれ、秋のモミジ、雪を被る笠地蔵。そんな雰囲気が残る城山は、これからも訪れる人を楽しませてくれることでしょう。

花泉の地名の由来「花立泉」

千厩町小梨・南小梨自治会

地域紹介

PALPAL 交流 30 周年の記念に黄金山ヒルズ公園の除幕式を行った南小梨自治会と小梨地区の皆さん

～基本情報～

◆自治会長：三浦　邦弘 さん（2 期 3 年目）
◆黄金山の麓に位置する南小梨自治会は千厩 7 区と千厩 8 区の 2 つの区で構成され、152 世帯 505 人が暮らしています。

伝統を守りつつ次世代を見据えた自治会活動

若いリーダーの登場で増えた同世代の参加

千厩町、藤沢町、室根町にまたがる黄金伝説の山「黄金山（おうごんざん）」の麓に位置する南小梨自治会は、昭和 60 年 12 月に第 7 区自治会と第 8 区自治会が統合し結成された自治会です。「現在の人口減少問題等を見越しての統合だったのだろう」と当時を振り返る自治会長の三浦邦弘さんは今年で 54 歳。その若さで自治会を引っ張っています。

「今は、自治会活動は親に任せっきりという人が増え、活動の中心になっている年齢層が高くなってきている。『もっと若い人達に出てきてほしい』という期待もあって自分が推薦されたのかもしれない」と話す三浦さんは、自身も「これからの世の中を背負う人たちに地域に出てきてほしい」と思い、自治会長就任後、同級生達にも積極的に声をかけ、三浦さんが自治会長になってから同世代の参加や協力が増えてきています。

地域のシンボル「黄金山」

同自治会は、総務、産業、教育文化、女性、体育、健康福祉の 6 つの専門部から構成され、各部がその年の事業計画を立てます。その時の部長によって得意分野が活かされ、それぞれのカラーが出るので自治会長からは一切口出ししません。

4 年前から始めた「黄金山まつり」は、かつて奥州藤原氏の平泉黄金文化を支えた産金の地として知られる黄金山の 8 合目に位置する黄金山キャンプ場と、自治会活動の中心になっているみなみ小梨交流センターを会場に開かれます。教育文化部が中心となり、トレッキングや広い牧草地を使いゴルフのドライバーコンテストを楽しんだり、合同開催の健康福祉部による「小梨地区福祉まつり」ではもち料理等が振る舞われます。

毎年の定番行事として定着してきた黄金山まつりですが、きっかけは前自治会長やこれまで地域を支えてきた人たちの黄金山に対する思いでした。「これまで南小梨では何をするにも黄金山の名前を使ってやってきた。地域のシンボルであるその山を荒らしてはならない。今後、若い世代の愛着が薄れてくるだろうからここらでひと踏ん張りして、地域にとって黄金山は誇りなんだよということを伝えたい」と、三浦さんもその意志をしっかりと受け継いでいます。

いつの時代も地域をつくるのは自分たち

「自治会活動に限らず、大切なのは最終的にどうなりたいかという目的を持つこと」と話す三浦さん。「柱となる目的がないままいきなり『あれをやろう、これをやろう』と始めても単発花火や空振りで終わってしまう。地域としての目的を定め、それに向かってどんな活動が必要なのか自分たちで考え、行政等に提案し協力を得るのが効果的なのでは。一番現場を知っているのは我々なのだから。南小梨では人口減少をどうやってストップさせるかが一番の課題だと思い、自治会長就任の時から話し続けてきた。同世代や次の世代の声を聞ける場をつくりこれからの地域を一緒に考えていきたい」と今後の抱負をお話ししていただきました。

毎年お盆に開かれる「南小梨ふるさと祭り」で大人気の流しそうめん

有限会社　三浦工務店

企業紹介

代表取締役　三浦　昌喜さん　　奥様　三浦　友子さん

～基本情報～
◆代表取締役：三浦　昌喜 さん
◆連絡先：〒029-1202
一関市室根町矢越字湯舟 99-1
◆電　話：0191-64-2808
◆ＦＡＸ：0191-64-3911
◆E-mail：mmmiura@dance.ocn.ne.jp

地域と共存～支え合う関係を築く～

地元を愛する工務店

「森は海の恋人植樹祭」で知られる、一関市室根町の第 12 区自治会。その集落内に「夢と笑顔のまごころ住宅」がモットーの、地域に根ざす工務店があります。

昭和 29 年 4 月、現社長の父である初代三浦恵三さんが、生まれ育った集落に三浦工務店を設立。平成 6 年 6 月には有限会社三浦工務店として法人化しました。

初代社長は、大工の弟子育成に力を入れており、中学卒業後の子どもたちを住み込みで受け入れ、多くの棟梁を輩出。「旧東磐井郡出身の子どもたちが大工になるため、30 名ほどここで修業を積んだかな・・・。土木と違って建築の人材育成には時間がかかってね、最低 5 年は住み込みで仕事を覚えていったんだよ」と、当時を振り返る現社長の三浦さん。「初代社長はお酒が好きでね。大工修行の他にも、人と人との繋がりを大切にすること、地域に役に立つことを若い衆に語って聞かせ、地域の人材育成にも力を入れていた人だよ」と続けます。現在、当時の見習い大工数名が、棟梁として同社に従事。先代の教えの下、時代の変化に対応しながら、地域の風土を良く知り、地域の人々とのコミュニケーションを大切にしています。

地域の企業や人材との協力

「人材不足は地域も企業も同じ。若者やベテラン、元気な母ちゃんたちがいて成り立つものじゃないかな。だからこそ、協力が必要だよね」と語る、三浦さん。続けて「人との繋がりってどこにあるかわからないもの。機会があれば、地域のいろんなところに顔を出して情報の収集や発信をしてみるの。できることは率先して協力する姿勢が大事」と語るのは、奥様の友子さん。奥様は 30 数年前、北上市から旧室根村に嫁ぎました。当時は、見知らぬ土地で知り合いもなく地域の情報を収集する手段がなかったとか。子どもたちの小学校入学を機に、PTA やスポ少の育成会など積極的に参加することで、地域を知り、地域を発信するより良い関係を築き上げたのです。今では一関市商工会議所女性会室根支部長を務め地域にとって重要な存在となっています。

「実際、小さな地域の中で小さな企業だけの貢献活動は難しいもの。地域住民と一緒になってできることを全面的に協力することが大切。これからも、お互い支え合って地域を活性化していきたいですね。」と語る姿からは、地域に対する熱い思いが伝わってきました。

地域一丸となって

「森は海の恋人植樹祭」は、森・川・海の生態系の結びつきを知ってもらうために気仙沼市唐桑町の牡蠣の森を慕う会と室根町第 12 区自治会が主催し始めた活動で、今年で 26 回目。当日は同自治会の、ひこばえの森交流センターを会場に「こっとんこ水車まつり」も開催しています。同社は、植樹祭前日までに仮設トイレの設置協力や植樹の準備、こっとんこ水車祭りでの出店など地域の方々と協力し盛り上げています。また、まつりの名称にもなっている水車も、大昔その地にあった水車を平成 7 年に地域一丸となって復元したとのことで、集落のシンボルとなっているのです。「三浦工務店がここにあるのは、そこに地域があるからこそ！」と語る三浦さん。取材当日も、地元の方々が集う明るい工務店でした。

震災時には、自治会と協力し翌日から沿岸部に出向き給水作業や炊き出しを行いました。

センターの◎◎！

まる まる

―わたしたちの一関の未来づくりワークショップ―

一関市では、市全体のまちづくりの方向性を定める総合計画の「基本構想」にあたる部分を、行政だけではなく市民の方にも一緒に考えてもらおうと、市民約１５０名を対象にしたワークショップを８月９日～１２日の４日間に亘り開催しました。地域の高校生の方にも参加してもらうため、会場は高校がある一関・千厩・大東の３地域で実施。今月は、ワークショップの準備から開催までの取り組みをご紹介します。

1　6月2日

依頼

次期総合計画基本構想を市民の意見を取り入れていきたいと一関市総合計画審議会にて起案され、当センターにワークショップ開催にあたりファシリテーター依頼があり、審議会にてワークショップ開催の仕方について説明させていただきました。

2　7月10日

研修会

ワークショップ開催に向けて、審議会のみなさんに会議の進め方について研修を行いました。

3　7月25日

打ち合わせ

各会場 2 回のワークショップの着地点を確認し、どのように進めるか、会場の作り方など、ワークショップ直前の打ち合わせ。
当センターでは、ファシリテーター依頼書に基づき、主催者さんの目的にそった会議設計を作ります。

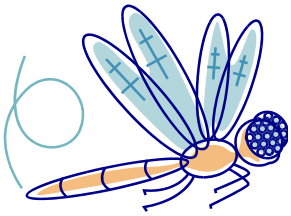
4　8月9日～14日

ワークショップ

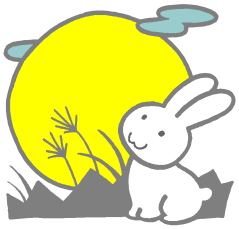
ワークショップでは、センタースタッフ全員参加で全体･各テーブルのファシリテーターを務めました。話し合いでは、まちの将来像やまちづくりに必要な考え方等を語り合い、最後に基本構想のキャッチフレーズ案を作成。市民の方も高校生の方も、まちづくりに対する意識が非常に高く驚きました。

一言コメント

一関市総合計画基本構想を考えるワークショップ全 4 日間のプログラムが終わりました。最後は、まちづくりの考え方とキーワードをまとめ、キャッチフレーズをつくりましたが、一関のまちがこうなったらいいなの期待値が高まったと思います。市民参加で総合計画をつくることが必要と思い、今回のお話をいただいた時、何が何でもやり遂げたいと気合が入ったのでした。今回のワークショップに関わっていただいた皆さん、本当にお疲れ様でした。



おしらせ



大東　講演会「飢饉の歴史を伝える」～地元に残る無縁冢～

芦東山記念館では、夏季特別展「おなかがへっても食べられない～飢饉と救荒食～」の関連行事として、萩荘文化協会の齋藤初美さんによる講演会を行います。飢饉の時代に生きたご先祖様たちの生活や歴史を学びます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 6 日(土)
13 時 30 分～14 時 30 分
【場所】芦東山記念館
【料金】聴講無料（入館料は一般 300 円）
【電話】0191-75-3861
【問合】芦東山記念館

東山　スパニッシュ・コネクション・コンサート

NANDARI-Art Project では、スペインフラメンコ音楽をコアに置きつつ、クラシック、ジャズ、民俗音楽等のエッセンスを織り交ぜ独特な演奏を奏でる「スパニッシュ・コネクション」によるコンサートを行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 10 日(水)
開場 18 時 30 分　開演 19 時
【場所】石と賢治のミュージアム
【料金】大人 2,000 円 高校生以下 1,000 円
【問合】NANDARI-Art Project／千葉
【電話】090-8423-1179

千厩　せんまやつるし飾り物語

せんまや逸品の会では、長寿を願う重陽の節句に合わせ、せんまやつるし飾り物語を開催します。会員や有志が手作りした馬の飾り 1000 個を展示するほか、販売、手作りの七宝まりが当たる抽選会も行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】26 年 9 月 12 日(金)～15 日(月)
10～16 時(※13 日は 21 時まで)
【場所】旧まるい呉服店(本町こんきん隣)
【料金】入場無料　【電話】0191-53-2735
【問合】せんまや逸品の会
（一関商工会議所千厩支所内）

花泉　金沢八幡神社大名行列

八幡宮が火災で遷宮した際、田村藩主名代らと共に大名行列の様式でご神体を守りました。その歴史を 250 年に亘り継承する、金沢八幡神社大名行列を行います。ほら貝の音に合わせ、毛やりや長刀を持ち路上を行進します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 14 日(日)14 時～15 時
【場所】花泉町金沢字新町から本町地区路上
【料金】無料
【電話】0191-82-3483
【問合】金沢八幡神社

一関　リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014いわて

公益財団法人日本対がん協会／リレー・フォー・ライフジャパンいわて実行委員会では「ひとりじゃない～いっしょに歩くべ!!未来に向けて～」をテーマに、がん征圧・患者支援チャリティーイベントを開催します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 20 日(土)12 時～
21 日(日)12 時
【場所】一関遊水地記念緑地公園
【料金】入場無料【電話】0191-21-0554
【問合】実行委員会事務局(一関病院内)

室根　室根高原牧場まつり

室根高原牧場まつり実行委員会では、乗馬体験やふれあい動物園など、家族で室根の自然を満喫できる室根高原牧場まつりを開催します。野外ステージでは、吉野崇さん、ツジヤマガクさん方等によるライブも行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 21 日(日)10 時～15 時
【場所】室根高原ふれあい牧場
【料金】入場無料
【問合】大東ふるさと分校／中澤
【電話】0191-72-3125

花泉　花泉フェスタ＆消防祭

一関市では花泉フェスタ＆消防祭を開催します。当日はフリーマーケットや農産物等直売コーナー、バルーン＆マジックショー、特設会場では臼澤みさきさんのコンサート、柴田三兄妹による津軽三味線ショー等を行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 21 日(日)
9 時 30 分～15 時
【場所】花と泉の公園【料金】入場無料
【問合】花泉支所地域振興課
【電話】0191-82-2211

藤沢　作りたてのソーセージと焼きたてのパンをビールやワインで楽しむ会

朝の館ヶ森アーク牧場で、卵の収穫体験、その新鮮卵を使いシェフが目の前で作るオムレツの他、野菜サラダやワイン等、皆で牧場の風景と一緒に朝食を堪能しませんか？一ノ関駅からの往復バスをご用意します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 21 日(日)7 時～10 時
【場所】館ヶ森アーク牧場　ハーブ館
【料金】一人 10,000 円　※要事前申込
【問合】館ヶ森アーク牧場／田村
【電話】0191-63-5100

川崎　てんとう虫教室

ＮＰＯ法人アートで明るく生ぎるかわさきでは、調理実習とアート創作活動(絵画・遊書)を通じて、障がいのある方と地域住民が交流を深めるてんとう虫教室を開催します。地域の方のご参加をお待ちしております。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 9 月 30 日(火)10 時～15 時
【場所】川崎公民館
【料金】無料
【電話】0191-43-4733
【問合】NPO 法人アートで明るく生ぎるかわさき

今月の表紙

この写真は、千厩町千厩字町の太田生花店で開かれた期間限定のシルバーアクセサリーショップの写真です。古家具を使った展示棚がオシャレですね。

Q&A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q チラシづくりのコツを教えて下さい。

A コツの１つとして、チラシのタイトル、日時や場所等の基本的な内容は、チラシの上部に書きましょう。チラシ棚に入れると、上部より下は前のチラシで隠れてしまいます。
棚に入れた状態を想像してチラシをつくるだけで、グッと内容が伝わりやすくなりますよ！

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0901 一関市大町 4-29 なのはなプラザ4F TEL0191-26-6400 Fax0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803 千厩町千厩字町 149 TEL0191-48-3735 Fax0191-48-3736
ブログはコチラ